

第4回 CEAPAD 閣僚級会合 岩屋外務大臣によるスピーチ

(2025年7月11日(金) 17:30-18:30)

1. 開会の挨拶

- ハサン・マレーシア外務大臣閣下、サラーム・パレスチナ計画・国際協力庁長官閣下、御列席の皆様。
- 本日、第4回 CEAPAD (シーパッド) 閣僚級会合を開催できることを嬉しく思います。本会合をホストされたマレーシア政府の御尽力に心から感謝いたします。

(CEAPAD 再活性化)

- 日本は、「二国家解決」による和平実現を目指しています。そして、東アジア諸国のリソースや発展の知見を活用し、パレスチナの「国づくり」を支援する枠組みとして、2013年に CEAPAD を立ち上げました。以来、CEAPAD は、協力を積み重ね、メンバー国も拡大してきました。
- 今日(こんにち)、パレスチナは、かつてない困難に直面しています。ガザでは、今なお事態は沈静化せず、極めて深刻な人道状況が続き、喫緊の人道ニーズと膨大な早期復旧・復興ニーズが生じています。
- こうした中、支援の拡大と手段の多様化を図るべく、CEAPAD を通じた連携の活性化がますます重要となっています。本日、こうした考えを共有する東アジアの

パートナーが一堂に会したことは、パレスチナにとって大きな励みになると信じています。

(CEAPAD の強み、JAIP との連携)

- パレスチナが直面する課題は、多岐にわたります。多様な復興や発展の経験を有する東アジア諸国が、それぞれの強みを持ち寄り、パレスチナの復興に向けた様々な課題に対して解決策を示す、それが CEAPAD の強みです。
- 特に、CEAPAD は、「国づくり」のための「人づくり」に焦点を当てています。これまでに、インドネシア、マレーシア、タイ、韓国、シンガポールと共に、パレスチナの行政、教育、保健、農業といった幅広い分野で、三角協力や技術協力を実施してきました。日本は、今後も、人材育成や能力開発を力強く支援していく考えです。
- また、昨年メンバー入りしたカンボジアには、本年さっそく、パレスチナ関係者をプノンペン経済特区に迎え、工業団地開発・運営の知見を共有していただきました。ありがとうございました。
- 西岸地区には、我が国が掲げる「平和と繁栄の回廊」構想の旗艦事業である「ジェリコ農産加工団地 (JAIP)」があり、現在、パレスチナ企業 17 社が稼働、約 300 人の雇用を創出しています。パレスチナの経済的自立のため、CEAPAD メンバーの民間の活力を JAIP に呼び込みたいと考えています。

(我が国個別の取組)

- 日本は、1993年以降、約26億ドルのパレスチナ支援を実施してきました。このうち、2億3千万ドルが2023年10月以降の支援です。パレスチナ自治政府（PA）への財政支援、保健・衛生、食料、瓦礫除去、廃棄物処理、インフラなど多岐にわたります。
- また、日本は、パレスチナ難民支援を担うUNRWAに対しても、引き続き、必要な支援を検討すると共に、ガバナンス強化を後押ししていく考えです。
- 日本は、自らの将来を築くパレスチナのオーナーシップを尊重し、支持しています。そして、「二国家解決」を一貫して支持しています。
- このような立場から、日本は、引き続き、CEAPADパートナーを含む関係国・機関と連携し、人道支援、早期復旧及び復興支援、PA改革支援において、積極的な役割を果たしていく考えです。ありがとうございました。

2. 閉会の総括

- 各国・機関の参加を得て、本日の閣僚級会合が成功裏に開催できたことを嬉しく思います。改めて、共同議長として本会合をホストされたマレーシアの協力に感謝を申し上げます。
- また、本日の会合は、「二国家解決」を実現すべく、「国づくり」に邁進するパレスチナの人々に確かな希望を与えることができたと思っています。ガザにおける停戦が一刻も早く実現することを求めるとともに、

会合の成果を踏まえ、今後、協力・連携が一層促進されることを期待し、日本は、引き続き、CEAPAD 立ち上げ国としての役割を積極的に果たしてまいります。
(了)